

中学生が当院の医療現場を体験

7月29日(火)、県内の中学生を対象に「中学生地域医療現場体験」を実施しました。この事業は、地域医療の現場での体験を通して、医師・看護師等の職業の重要性について理解を深め、地域医療従事者を目指す中学生の育成を図ることを目的としています。

当日は手術部・放射線部・小児センターの見学や内視鏡手術トレーニングの体験を行いました。体験学習終了後のアンケートでは医療に対する前向きな感想が寄せられました。



手術見学

今年も「高校生手術部体験学習」を行いました

7月30日(水)、「高校生手術部体験学習」を実施しました。手術の現場を体験して医療従事者を志す人材を増やす目的で、県内の高校生を対象に毎年実施しています。今年は35名が参加し、①手術見学、②縫合手技、③腹腔鏡手術シミュレーション、④臨床工学技士業務見学の4つのプログラムを体験しました。終了後には「貴重な体験ができて良かった。」「医師になりたい思いを強くした。」などの感想が寄せられました。



腹腔鏡手術シミュレーション

病児・病後児保育室が利用できます

当院には病児・病後児保育室を設置しております。
病児・病後児保育室は、出雲市内の保育施設に在籍されているお子様もご利用いただけます。



定員	4名
時間	平日の午前8時から午後6時まで
料金	1日あたり 2,000円 昼食費 300円

事前登録が必要ですので、利用を希望される方は下記までお問合せください。

問合せ先 うさぎ保育所 TEL(0853)20-2346



★ 診療費の支払がコンビニでもできるようになりました

9月1日から、当院の診療費等の支払いが全国のコンビニエンスストアでできるようになりました。詳しくは病院支払窓口(6番)でお尋ね下さい。
なお、今までどおり現金、銀行振込、クレジットカード、デビットカードでもお支払いいただけます。

問合せ先 医療サービス課収納担当 TEL(0853)20-2072 (平日:午前8時30分~午後5時15分)

NEWS

CONTENTS

診療科特集

- ・耳鼻咽喉科
- ・眼科

中学生が当院の医療現場を体験
今年も「高校生手術部体験学習」を行いました
病児・病後児保育室が利用できます
診療費の支払がコンビニでもできるようになりました



診療科特集



Access

外来 TEL 0853-20-2390
 病棟 TEL 0853-20-2497 (B病棟8階)
 医局 TEL 0853-20-2276
 FAX 0853-20-2271
 E-mail otolaryn@med.shimane-u.ac.jp
 U R L http://www.med.shimane-u.ac.jp/oto/index.html

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科 診療科長 **川内 秀之** (かわうち ひでゆき)

頭頸部がん治療最前線 ～命と機能を守る診療科～

当科で扱う頭頸部がんの種類は多岐にわたっており、耳、鼻、口腔、咽喉頭、頸部(唾液腺、甲状腺など)などの部位で患者さんのお世話をさせていただいています。がん患者さんの予後を左右するのは、きちんとした診断と患者さんの状態に応じた適切な治療ができるかどうかです。当科では、がんの進み具合をまず知るために、診断においては、腫瘍マーカーの検査、CTやMRIでの画像診断、病理部での病理診断を行い、治療の際には、放射線治療科や腫瘍・血液内科の協力を得て、テララーメードの集学的治療(手術、放射線治療、がん化学療法)を行っています。島根の頭頸部がん患者さんの特徴は、進行例が多いこと、高齢の患者さんが多いことなどで、画一的な治療は通用せず、看護師など病院の多くのスタッフのチームワークがないと治療がうまくいきません。当科では、命と機能を守る外科というスタンスで、患者さんにがんを克服していただくと同時に、治療後も日常生活に必要な機能(視力、聴力、咀嚼、嚥下、呼吸など)を保つことを心掛けています。

上顎がんや、口腔がん(舌がんや口腔底がん)では、進行した例を治療させていただくことが多いのですが、根治手術を行った患者さんでは、欠損部の再建に有茎あるいは遊離皮弁を用いて再建し、術後の形態と機能を保つ工夫をしています。

「喉頭がん」は声がかかるので比較的早く気づきやすく、早期の例が多く、ほとんどがレーザー治療や抗がん剤を併用した放射線治療で治ります。

舌根部や扁桃腺の部位にできる「中咽頭がん」、食道の入り口の下咽頭にできる「下咽頭がん」は、進行してくると、咽がつまる感じや、食事がとりにくくなる、むせるといった症状が出てきますが、時には頸(くび)のリンパ節が腫れることなどで発覚します。また下咽頭がんでは、その特徴として、よく調べてみると、約4割近くに、別の場所でもがんが見つかることがあります。そのため、当科では、頭頸部がんの患者さんでは、治療前に全身的に検査をする体制を整えています。小さいものは、簡単な切除や放射線治療で治せますが、進行していれば根治手術を中心とした集学的治療が必要になります。下咽頭がんや進行した喉頭がんでは、大きな手術をする場合には、食べ物を通過するルートや呼吸するための気管孔を作る必要もあります。

鼻血がよく出る、声が枯れる、息がしにくい、食べ物がのどを通りにくい、首に腫れ物があるといった症状がある場合は、早めの受診をお勧めします。



喉頭がんのレーザー手術

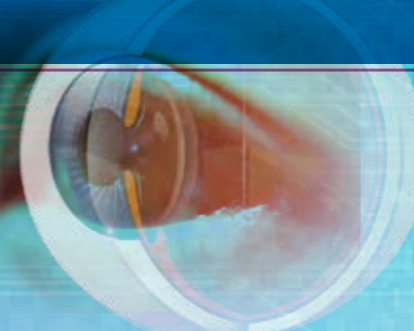


ナビゲーションシステムを用いた鼻内視鏡手術



耳手術や鼻手術前に練習ができる医療機器

Clinical department special feature



Access

外来 TEL 0853-20-2391
 病棟 TEL 0853-20-2497 (B病棟8階)
 医局 TEL 0853-20-2284
 FAX 0853-20-2278
 E-mail ophthal@med.shimane-u.ac.jp
 U R L http://www.med.shimane-u.ac.jp/ophthalmology/

眼科

眼科 診療科長 **大平 明弘** (おおひら あきひろ)

患者さんにとって最適の医療を選択することを目標とし、日々診療に取り組んでいますので、是非ご紹介ください。

網膜硝子体疾患

眼科領域の中でも網膜硝子体疾患の診断と治療を得意としています。増殖性糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔、網膜前膜、硝子体出血など外科的手術を要するものから加齢黄斑変性症、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、中心性漿液性網脈絡膜症などレーザー治療、薬物治療が中心になる眼底疾患まで幅広く対応しています。

手術加療においては、県内で一番多く硝子体手術を行っており、年間約300例を数えます。最新の硝子体手術装置ならびに広角観察システムを導入しており、手術の切り口が小さい小切開硝子体手術により術後のより早い視機能の回復、社会復帰を目指しています。

手術加療以外では、糖尿病網膜症や網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対して、ステロイドテノン嚢下注射、抗VEGF製剤の硝子体内投与を積極的に行っています。また、当科で開発したサイクロデキストリン包接高濃度デキサメサゾン点眼による点眼加療も奏効しています。最近、増加傾向にある加齢黄斑変性に対しては、抗VEGF製剤(ルセンティス®)の硝子体投与を2009年より始め、2012年に発売された新しい抗VEGF製剤(アイリーア®)の投与も行っています。

白内障

白内障は手術加療を積極的に行っており、患者さんのQOV(Quality of vision)向上のため、乱視用眼内レンズ等の付加価値のついたレンズも積極的に使用しています。

緑内障

緑内障の治療は薬物、レーザー、観血的手術を組み合わせで行っています。薬物治療においては、外来看護師による服薬指導を行い、個々の患者さんにおける点眼手技や緑内障薬物治療への理解度についての問題点を発見し、改善する努力をしており、服薬指導のみで眼圧下降が得られ、手術を回避できる患者さんもいます。

斜視・弱視

小児の斜視・弱視治療をはじめ、成人の斜視まで、幅広く対応し、診療のたびに医師と視能訓練士が次回の治療計画を相談し、きめ細やかな診療を提供できるよう心がけています。

眼腫瘍

山陰地区で眼科領域腫瘍を専門にする眼科医はほとんどおらず、当院では兒玉准教授が担当しています。画像および病理診断確定後、腫瘍・血液内科による化学療法、放射線治療科による体外照射をはじめ、他科と連携し、大学病院ならではの総合的治療を実践しています。





第2回

患者さんの視点に立った医療を考える委員会を開催しました



会議の様子

7月23日(水)、7名の外部委員と4名の学内委員出席のもと、「第2回 患者さんの視点に立った医療を考える委員会」を開催しました。

前回持ち帰っていただいた資料『患者満足度アンケート』、『患者さんの声』について、それぞれのご意見に対し現状を確認した上で丁寧に対応していることがわかり好感が持てたとの意見や、アンケートの回収率を上げるための工夫として、依頼文や回収時期についての修正案なども提示いただくことが出来ました。

また、患者待ち時間調査を行って、待ち時間の短縮に努めていることや、患者図書室「ふらっと」の利用状況について病院長から説明があり、外部委員の皆さんは熱心に聞き入っておられました。

その後、授乳室や患者家族控室を見学し、案内板の設置数を増やした方がわかりやすいのではないかなどと利用者の立場に立った意見を頂くなど、地域に根ざした医療を推進する当院にとって実りのある会議となりました。



授乳室の見学





島大病院ニュース
2014年09月

お知らせ

家族性大腸腺腫症(FAP) 遺伝子検査を開始しました

おにがた かずみち
臨床遺伝診療部 鬼形 和道

家族性大腸腺腫症(FAP)は、生殖細胞におけるAPC遺伝子の変異が原因で発症する遺伝性疾患です。大腸のポリポシスは15歳で60%、20歳で80%、35歳前後でほぼ100%に見られます。大腸がんは40歳で約50%、放置すれば60歳頃には100%に達するとされます。

APC遺伝子の変異同定はFAPの確定診断となり、血縁者に対する遺伝子検査も可能となります。発症前(10代)から定期的な大腸内視鏡検査を行うことで、大腸がんの発生前に予防的に手術を行うことが可能です。

この疾患の遺伝形式は常染色体優性で、患者さんにAPC遺伝子変異が同定された場合、子どもには性別に関わらず50%の確率で受け継がれます。遺伝子検査の前に必要な遺伝カウンセリングも当院の「臨床遺伝診療部」で受けることができ、患者さんおよびご家族の相談に対応しております。

APC遺伝子検査

発端者向け(全血 7ml)	フルシークエンシング(1回につき)	¥88,020
	MLPA法(1回につき)	¥34,020
	追加MLPA法(1回につき)	¥23,220
血縁者向け(全血 2ml)	シングルサイト(1回につき)	¥34,020

問合せ先

受付時間 平日:8:30~17:15
臨床遺伝診療部 外来 TEL:0853-20-2383(小児科外来)
FAX:0853-20-2397(小児科外来)





島大病院ニュース
2014年09月

お知らせ

トップクラスの 心臓リハビリテーション施設を目指して

リハビリテーション部 療法士長 えぐさ のりまさ
江草 典政

リハビリテーション部では2012年12月に、心大血管リハビリテーションの施設基準を取得し、循環器内科および心臓血管外科の協力のもと心臓リハビリテーション(以下：心リハ)を開始しました。

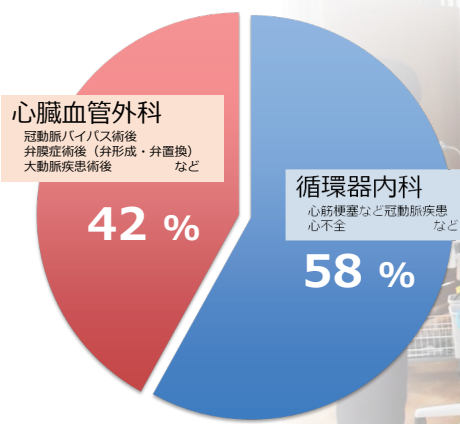
心リハは心疾患の発生を予防すると共に、罹患後の患者さんの生命予後を改善することが明らかにされておりますが、要求される専門知識と施設基準の高さから国内でも実施可能施設は多くありません。

心リハ開始から患者数は年々増加し、昨年度の実施患者数は200名を越えました。対象も心筋梗塞や心不全、各種心臓血管外科術後に至るまで多岐にわたります。心臓血管外科術後については従来、術後リハビリ開始まで1週間以上かかっていましたが、現在は術後翌日から運動療法を開始し1週間が経過する頃には500m程度の歩行が出来るまで機能回復が図れるようになりました。

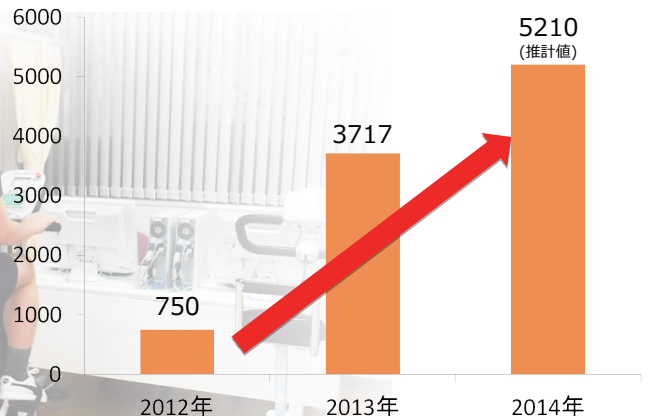
しかし、心リハの最も期待される効果は急性期以後(Phase II)の取り組みによる再発予防、予後改善効果にあり当院でも外来心リハを開始しました。高齢化の進む島根県には心リハ実施施設は高いニーズがありますので、開設に興味がある医療機関がありましたら、ぜひお声がけください。



心臓リハビリテーション対象者
(診療科別割合)



心臓リハビリテーション実施単位数



【参考】1単位は「個別療法(20分)」を意味します。
心臓リハビリは1人に対して1日2~3単位実施します。

問合せ先 リハビリテーション部 TEL:0853-20-2457 / FAX:0853-20-2305



平成26年9月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援室
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース
2014年09月

お知らせ

医師会会員の方限定 島根大学病院休日人間ドックのご案内

ながい あつし
臨床検査科 診療科長 長井 篤

今年度から開始しました休日人間ドックは、島根県医師会様からご案内をいただき、お陰さまで多数のお申込みをいただきました。ありがとうございます。

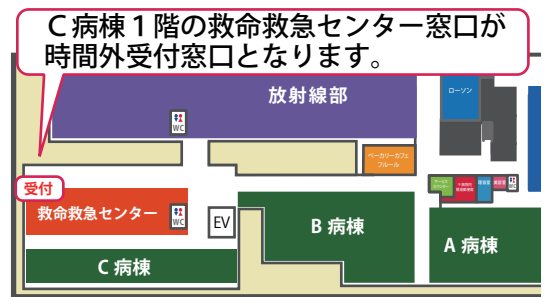
まだ若干の余裕がございますので、ご希望の先生は、早急に下記の間合せ先に照会の上、お申込みをいただきますようお願いいたします。※オプション項目のみでの受検も可能です。

このドックは、日常診療にお忙しい先生方の健康管理の手助けになることを願い、臨床検査科、光学医療診療部、放射線部が協力して企画いたしました。

今年は、9月14日(日)と10月5日(日)の2日間です。

検査当日は、時間外受付で受付後、外来2階の検査部へお越しください。全ての検査が受検できるように時間配分してお待ちしています。

今後も地域の先生方の健康維持に貢献できるよう進めて参りますので、よろしくお祈りします。



<基本ドック項目>

基本健診項目	
診察等	内科診察
	身長、体重、BMI、腹囲、視力、聴力
胸部健診	胸部X線撮影（胸部ドック選択者は不要）
心電図	心電図(12誘導)
眼科	眼底カメラ撮影
尿検査	尿中一般物質半定量（比重、pH、糖、蛋白、ケトン体、ビリルビン、ウロビリノーゲン、亜硝酸塩、白血球、ヘリコバクター抗体）
便検査	便中ヘモグロビン
血液検査	血液検査（WBC、RBC、Hb、Ht、MCV、MCH、MCHC、PLT）
	血液像（好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球）
生化学検査	TP、Alb、T-Bil、AST、ALT、LDH、ALP、γ-GTP、T-Cho、HDL-Cho、LDL-Cho、LDL/HDL、TG、BUN、Crea、Glu、HbA1c、UA、CRP
肝炎	HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体
腫瘍マーカー	AFP、CEA、CA19-9、SCC、PSA(男性)、CA125(女性)

<オプション項目>

コース	名称	検査内容
癌コース	胃癌ドック	胃内視鏡
	乳癌ドック	マンモグラフィ
	胸部ドック	胸部単純CT検査
動脈硬化コース	心臓ドック	超音波検査
	動脈硬化チェック	中心血圧測定
		頸動脈超音波検査
	脈波(3~4誘導)	
	脳ドック	MRI検査
	頸椎症ドック	MRI検査
	腰椎症ドック	MRI検査
	骨粗鬆症チェック	骨塩定量検査(DEXA)
	上腹部ドック	超音波検査



問合せ先 臨床検査科 TEL & FAX 0853-20-2559

お知らせ
島大病院ニュース

平成26年9月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース
2014年09月

お知らせ

薬剤師に必要な フィジカルアセスメント開催のお知らせ



カリの けんじ
クリニカルスキルアップセンター センター長 狩野 賢二

薬の作用や副作用による全身状態を把握するために視診・触診・聴診によるフィジカルアセスメントを薬剤師が行うことは、患者さんの安全・安心のために必要だと考えられるようになりました。現在、クリニカルスキルアップセンターでは浮腫モデル、呼吸音聴診シミュレータ、心音聴診シミュレータ、高機能患者シミュレータなどを用いて「薬剤師に必要なフィジカルアセスメント」を毎月定期コースとして開催し、今月は9月14日(日)に行います。

ご希望の方は右記URLよりお申込み願います。

<http://www.clinicalskillup.jp>

開催日 ・10月12日(日)
(10月以降の予定) ・11月16日(日)
・12月14日(日)

定員 8名 先着順

内容

9:00～ 9:30 受付
9:30～ 10:00 オリエンテーション
10:00～ 11:30 脈拍数、不整脈の有無、血圧測定
11:30～ 12:00 腸蠕動の聴診、検査データの確認
12:00～ 13:00 昼休憩
13:00～ 14:00 呼吸聴診とレントゲン写真
14:00～ 15:00 心音聴診と心電図
15:00～ 15:40 患者モニターとフィジカルアセスメント
15:40～ 16:00 修了式



問合せ先 クリニカルスキルアップセンター
TEL:0853-20-2551 / FAX:0853-20-2601
E-mail: skill-up@med.shimane-u.ac.jp





島大病院ニュース
2014年09月

お知らせ

救急医学講演会

重症外傷治療における チーム医療と医療体制 ～どのようなチーム医療を展開すべきか？～



講師：渡部 広明 先生

泉州救命救急センター
Acute care surgery センター長
外傷外科部長

と き

平成26年9月11日（木）
18：00～19：00

ところ

島根大学 医学部
看護学科棟 N-11教室

渡部先生は島根医大のご出身で、外傷治療のスペシャリストとしてご活躍中です。

今回は、重症外傷治療におけるチーム医療と医療体制についてお話をさせていただきますので、初期・後期研修医、医学生だけでなく、外傷診療に携わる学内外の先生方も是非ご参加ください。

※このセミナーは島根県医師会指定の生涯教育講座 **1** 単位 です。

主催

島根大学医学部救急医学
島根大学医学部医師会

Tel / Fax: 0853-20-2402
E-mail: qqigaku@med.shimane-u.ac.jp

共催

未来医療研究人材養成拠点形成事業

